



比賣鑑序

易曰家人利女自解之者曰利在女正女正
則家道正矣是故詩首關雎書美釐降禮謹
大昏夫女之不可不正業已如是而間有不
正者何耶不教也教之若何古人有書教法
孔昭然其出於中華者我婦女不得而讀是
以本邦人或為譯之或別自撰並行于世
必當使姆有以授之所以成女正也雖然其



書謂之教法全備則未也爰有一書名曰比
曹鑑伏江逸士仲文敬甫著之以為家訓未
及於人敬甫余之所敬而執文也故獲幸一
閱之其作大槩法於小學之書以推衍之有
述言有紀行凡三十有餘卷其文則用國字
且多引倭歌歌俾婦女易曉通感發也其事
則無倭漢無古今與此相干涉者希不擇而
取焉欲令讀者博覽多識而隨所遇有取法

也詳審精密親切著明未嘗見有女訓之臻
茲者可謂備矣弄瓦室合色之家皆知必據
此以垂教則疇患無所謂在女正之利哉最
可以嘉尚焉余又有思此書若徒知為房閨
鑑而不知為外庭之珍則可惜矣男女豈有
二性若彼女行之善而深感入焉固有廉頑
夫立懦夫况於碩士畸人負臣頃子乎其將
必曰女且能是我丈夫也詎止於此感發奮

激更進濶歩決兵厥益不亦饒乎教人者其
念之一日敬甫使余加鄙語於篇端余乃欲
略抒其所以作之之意則既具乎自序非可
復言故第稱述此書於正家之道將大有補
以擬書題耳矣

貞享丁卯冬十一月

伊葛子 滕藏書

婦道鑑諭草序

信問小女子と云ふは道も心得ぬハ
かゝ家多男一けれハ衣食の事も免せハ
女もさてやん家もみ或ハ位あ成人と
干函剛あんとと歌一ハ邦の才女れ
ハも一ハ中ハ家書ハ何ハ後ハ家
ハ小ハ人丈尤物人ハハ川ハ古乃語

かき里^そ楚辭^しと後^ごの三^{さん}款^{くわん}一^{いつ}て流^{りゅう}り^り成^{せい}と
屈^{くつ}子^しう忠^{ちゅう}孫^{そん}好^{こう}ま^まお^おふ^ふ成^{せい}と^とり^りも^も楚辭^しの文^{ぶん}
婉^{えん}手^て依^い故^こた^たり^り一^{いつ}楚辭^しの^の怨^{えん}恨^{げん}と述^{じゆつ}る成^{せい}文^{ぶん}
章^{すん}の尤^ゆ拙^{せつ}た^たれ^れと^とあり^り和^わ邦^{ほう}伊^い勢^{せい}源^{げん}の
物^{ぶつ}語^ごハ^ハ媮^{いん}奔^{ほん}と記^きと^と一^{いつ}又^{また}の尤^ゆ拙^{せつ}あり^り今^{いま}知^ちま
か^か子^し不^ふ後^ご免^{めん}ま^ませ^せ習^{じゆ}性^{せい}と^とあり^り一^{いつ}母^ぼハ^ハ子^しと^とふ
の^の能^{のう}ん^んさ^さめ^めの^のう^うけ^けと^と善^{ぜん}を^を勸^{すす}め^め惡^{あく}と

惡^{こころ}ま^まの^のめ^めち^ちと^と一^{いつ}以^い草^{そう}由^{ゆう}と^と好^{こう}ま^ま成^{せい}人^{じん}は
文^{ぶん}化^か依^い言^{げん}聲^{せい}と^とま^まる^る一^{いつ}又^{また}ふ^ふ才^{さい}女^{にょ}の^の又^{また}ま^まれ^れハ
詞^し舞^ぶ一^{いつ}く^くえ^えし^しと^とれ^れ祿^{りく}幸^{きやう}の^の種^{しゆ}と^と好^{こう}ま^まと^とあり^り
昔^{いさ}探^{たん}の^のめ^めと^と好^{こう}ん^んは^はう^う木^き素^そと^とま^まる^る也^や
一^{いつ}一^{いつ}一^{いつ}一^{いつ}一^{いつ}文章^{ぶんじやう}の^の風^{ふう}流^{りゅう}と^と好^{こう}ま^ま成^{せい}
是^{こゝろ}不^ふ符^ふ踏^{たふ}す^す依^いら^らま^まる^る中^{ちゆう}村^{そん}老^{らう}人^{じん}の^の雅^{みやび}體^{たい}
在^{こゝろ}お^おり^りれ^れて^て也^や也^や訓^{くん}の^の好^{こう}ま^ま第^{だい}一^{いつ}あり^りと^と補^{おぎな}
あ^あつ^つり^り今^{いま}も^も老^{らう}の^の教^{きやう}何^{なに}も^もし^しも^もな^なら^らず^ずと^とて^て見^み

百人の易ヤマトが人々の中より選えらんで立
の巻とあり一掃せんをきりて且あふけたまふと
あうまゝの跡あとと立依たす縁ゆかりふより下通盤とんぱん
りし名とありねむる河の妻つまも成思なりま
姫ひめのまゝあり先まへにありしものまゝと親おや
小松こまつのまゝ草くさと子の喜よろこ指さしまゝとあり依
下したまゝあり

寛曆六丙子五月好徳女入也

比賣鑑卷之一

序

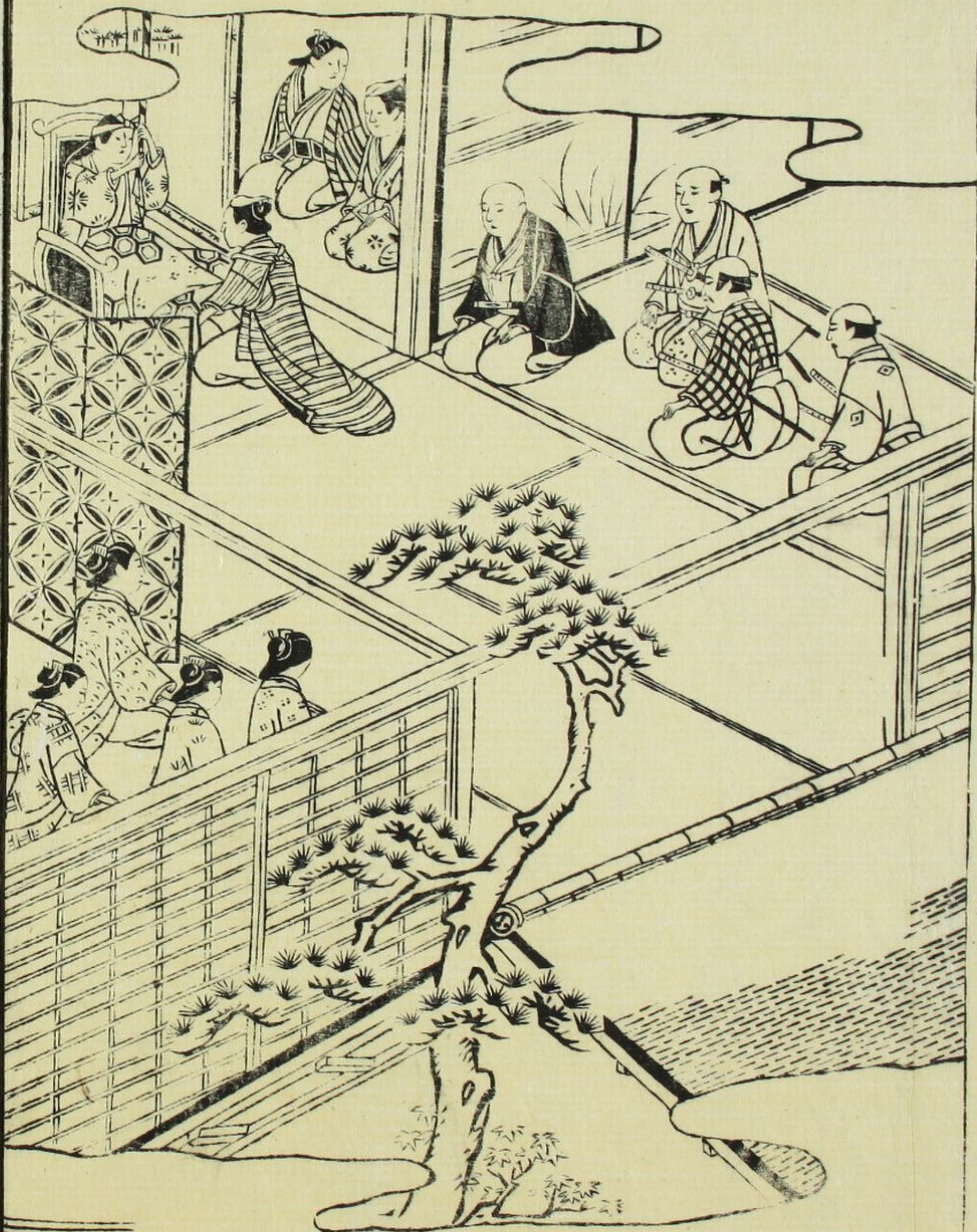
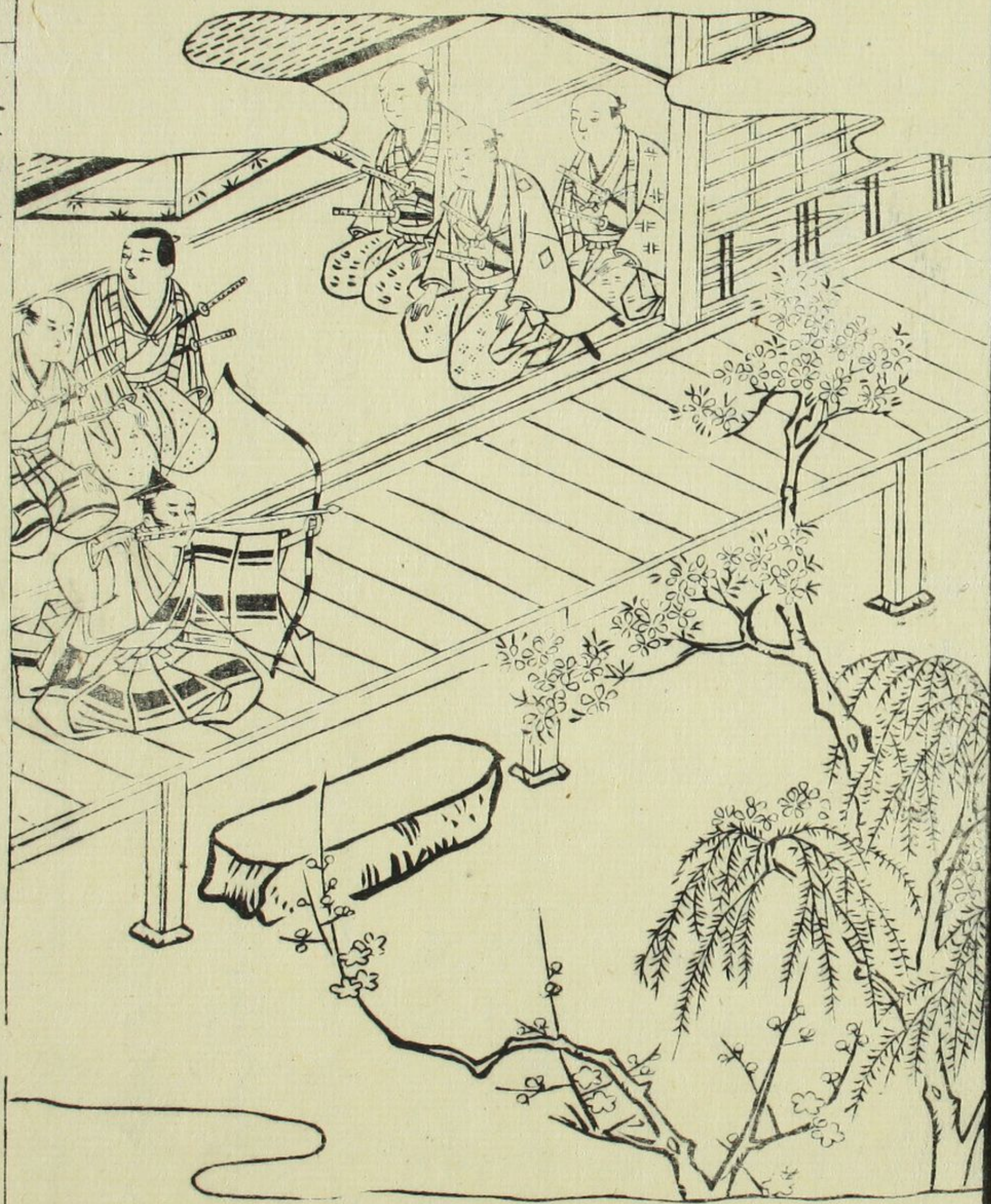
人の人なり道みちありおありの中よまま女おんな男おとこと陰陽いんやうれ氣きとこ
ふ天あま比ひのうらわうらわささととままいいおおままああいいととた
ここじじととままめめととつつここじじとと始はじめてまめめりりああぐぐととたたここ
網あみのなかりそのみみとと一ひと層へらたたかかつつととししととああつつととたた
おおらら母ははれれああつつららおおららののおおららととししととははととししのの業わざととししとと
ややととううととししととああつつららとと女おんなととああつつららととああつつららととああつつららとと
事ことおおああれれととししととああつつららととああつつららととああつつららととああつつららとと
ああつつららととああつつららととああつつららととああつつららととああつつららとと

ことごとくしるしめたるは、
 おのふらげうひさしよもあつて、
 ことごとくしるしめたるは、
 あつては、
 事なげうひさしよもあつて、
 よいことごとくしるしめたるは、
 とすことごとくしるしめたるは、
 ことごとくしるしめたるは、
 世よりのことごとくしるしめたるは、
 うふことごとくしるしめたるは、

事なげうひさしよもあつて、
 よいことごとくしるしめたるは、
 とすことごとくしるしめたるは、
 ことごとくしるしめたるは、
 世よりのことごとくしるしめたるは、
 うふことごとくしるしめたるは、
 事なげうひさしよもあつて、
 よいことごとくしるしめたるは、
 とすことごとくしるしめたるは、
 ことごとくしるしめたるは、
 世よりのことごとくしるしめたるは、
 うふことごとくしるしめたるは、

い徳のついでなる事あるに未だなく徳のたゞい徳とちてあ
まどゆる事あると徳のいふ事あるが義よそいけ
ふ利なり理よそいけなりとも利と徳の徳とあ
あ事ある事とゆることあることあることあること
いふ事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある
のいふ事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある
のりあも利欲傲慢よふらう深めくまらういふ事ある
徳うぶ孔子のいふ事ある事ある事ある事ある事ある
やそいふ事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある
うまらう事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある

徳とちてあまどゆる事あるに未だなく徳のたゞい徳とちてあ
まどゆる事あると徳のいふ事あるが義よそいけ
ふ利なり理よそいけなりとも利と徳の徳とあ
あ事ある事とゆることあることあることあることある
いふ事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある
のいふ事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある
のりあも利欲傲慢よふらう深めくまらういふ事ある
徳うぶ孔子のいふ事ある事ある事ある事ある事ある
やそいふ事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある
うまらう事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある



一人のよに胎^たぬとて入^いるものなれどすてま^まはらう^らぬはな
 くゆ^ゆひなくとてま^まらう^られい^いの^の人^{ひと}男^{おとこ}はよ^よせと^とれ
 肩^{かた}もあ^あ裳^もとて^て障^{かざり}とりてあ^あそ^そづ^づい^い後^{あと}そ^そく^く衣^いら^ら
 る^るて^てま^ま徳^{とく}た^たま^まの^のご^ごく^くな^なれ^れとい^いつ^つら^らなり^{なり}女^にも^もむ^むと^とれ
 地^ちも^もた^たじ^じし^しい^いふ^ふな^なん^んく^くは^はむ^むと^との^のて^てあ^あそ^そづ^づい^いて^てあ^あむ^むい^いて
 よ^よめ^め入^い衣^い裳^もも^もあ^あり^りよ^よち^ちい^いひ^ひん^んは^はけ^けく^く業^{わざ}と^と勤^{つとめ}し^しら^らあ^あく
 ま^まて^て着^きな^なの^のは^はあ^あは^はい^いら^らう^うと^とあ^あ女^にも^もい^いす^すか^から^らい^い成^なり^り
 いか^いの^のこ^こち^ちび^びく^くか^かと^とあ^あい^いひ^ひの^のお^おと^とあ^あら^らい^いひ^ひ女^にの^のあ^あよ^よう^うけ^けあ
 り^りよ^よう^うあ^あら^らお^おが^がり^りあ^あの^のい^いく^くま^まあ^あゆ^ゆり^りあ^あよ^よう^うあ^あて^てな^なと^とあ^あれ
 う^うい^いと^とあ^あめ^めと^とは^はい^いめ^めい^いく^くい^いま^まあ^あひ^ひな^なり^りい^いま^まう^うた^たく^く三^{さん}月^{げつ}た^たら^らい^いが^がい^い

した^した^たひ^ひす^すら^ら射^やら^らあ^あは^はい^いよ^よ薬^{くすり}の^のゆ^ゆに^に着^きら^ら矢^やと^とり^りて^てま^まは^はは
 方^{かた}と^と射^やら^られ^れら^らう^うの^のお^おと^とあ^あい^いと^とあ^あら^らい^いち^ちが^がひ^ひな^なれ^れとの^のあ^あめ^めあ^あり^りて^て
 ぬ^ぬの^のな^ない^いひ^ひと^とも^もい^いち^ちあ^あは^はれ^れむ^むと^とめ^め射^やら^らい^いけ^けう^うあ^あり^りい^いん^んあ^あら^らよ
 や^やか^かよ^よい^いち^ちあ^あは^はれ^れい^いか^から^らい^いま^まう^うい^いれ^れと^との^のい^いひ^ひな^なれ^れと^とい^いひ^ひな^なれ^れと^とい^いひ^ひな^なれ^れと^と
 て^てま^まあ^あい^いめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^う
 い^いま^まあ^あい^いま^まあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^う
 ら^らい^いち^ちあ^あは^はれ^れい^いて^てあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^う
 は^はい^いち^ちあ^あは^はれ^れい^いて^てあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^う
 とい^いち^ちあ^あは^はれ^れい^いて^てあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^う
 あり^りて^てあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^うの^のあ^あめ^めあ^あら^らう^う

女の身へろりあひハリひよりあつたふまよふくればしづ
 義音楽とくひら村馬よけりま義と知り英法とまのあつた
 お入彦よつとあつたあつた必とれく考よりあつて人をもま
 ぬらとをくふ九より目とととと干よと知りまのあつた
 八とつりとつとつそのあつたあつたあつたあつたあつたあ
 て和登降のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ぬらとをくふ九より目とととと干よと知りまのあつた
 のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 亮めつとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ぬらとをくふ九より目とととと干よと知りまのあつた
 よあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

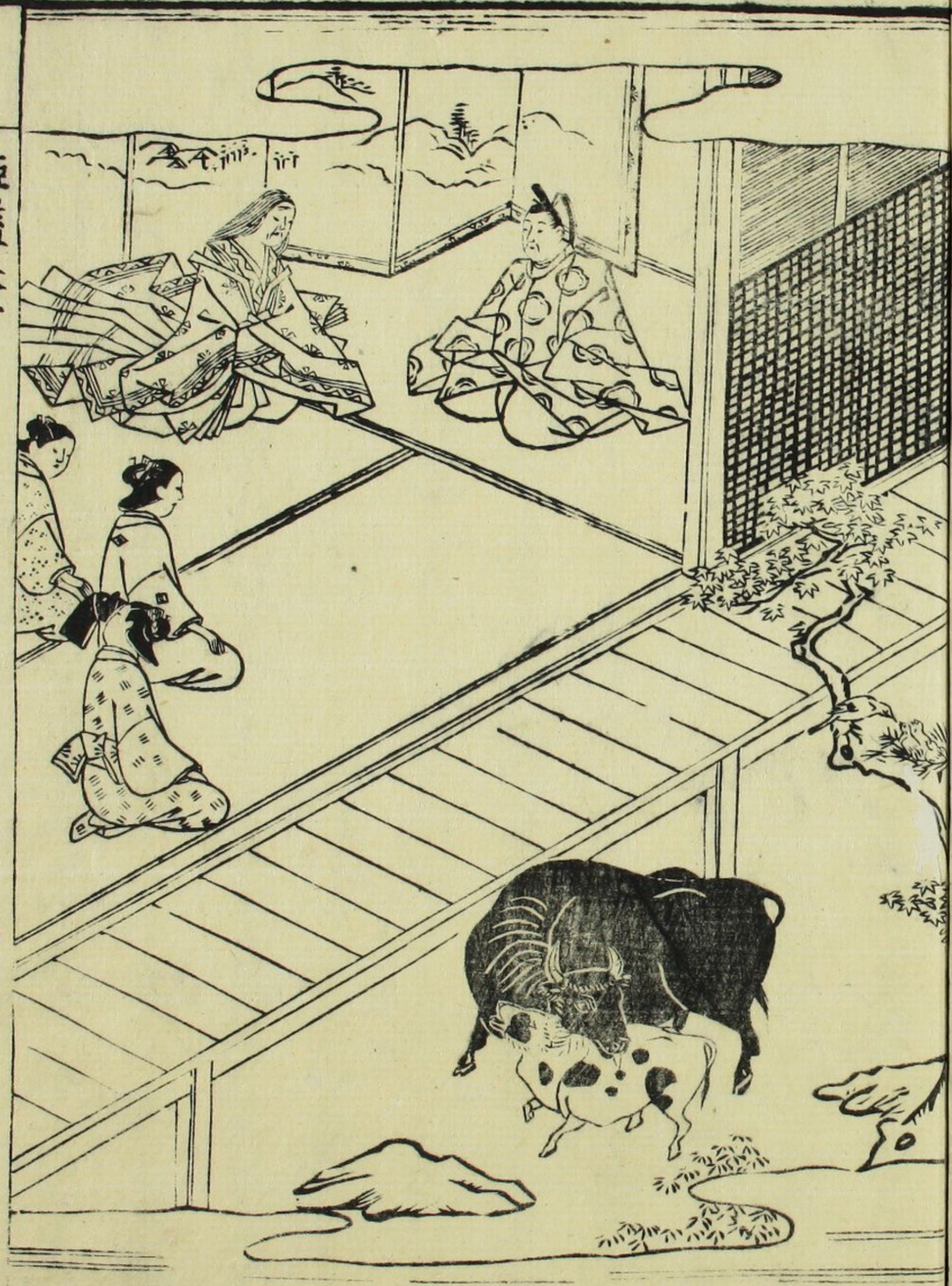
じぎあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 つひくまのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ひひくまのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ようあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 福くまのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

いまいちどどぶくすうくま物なり大中よめわくならず
 こゝ女母うづらねいふがのちめいほよそのなむとそいふ
 ろりてなり或いぢごその泣ととんてこれぬすづー
 まわてるんすうてあふかまのむたはしむかましくはつり
 とつひとてい夜書ねりわたり或いふまゝうづらとそいふ
 志まゆのどいとそびくごごうこれ腹痛のりわたり
 或いれよらひのちと理とまげくそくうらぶごてかむる
 これ教授のりわたり或いまひよとてあそびくらとなぐさ
 りんたりいろうこの物とりまふかまのゆもつひてそびわじ
 けらうらうのちあつてあそびくごごてむぐ曲わつ癖は

ゆ金りねくさいひびかきうらうのいあてゆるゆもそのが
 めいよらういよとていよらまらうつてすあまらぶがま
 えりやういよいあへつらるるるに深つあはくむせうて
 らあづらまらうのちあまらうらうらうらうらうてまが
 とくまらうらうあまらうらうらうらうらうらうらうら
 ぐらう茶のねいふなりらうらうらうらうらうらうら
 らびらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

人のちひ中あうらうらうらうらうらうらうらうら
 稚みよかふら穢敷とらうらうらうらうらうらうら
 ろらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あびたれどもとうきりてあはれなるもどかしの
 ちかきとていひなごころのむねをいひしるべし
 人者魯ろ公女文伯の母殺妻が文伯といまあのこと
 成らるしひるれ地かふらふといふ昔むしびもや
 ちりりけがれくは昔とてひるるにむしび
 いつろしひらかりみひる量元の平治とて人の母り
 子の親ふ孝なりもあまのつとめ思あふ今思
 むしひらおもがふふいふとていふはなはた
 とて念懐のむしひらふもひるいふはなはた
 かのゆらひまたいふとていふはなはた



心ひらき... 姑息の... 流れ... ぼく... ちか... こと... こと... こと...

静... 正静... 早稲... 講学... 寛惠... 侯賢... 不...

文章... 静... 正静... 早稲... 講学... 寛惠... 侯賢... 不... 文章... 静... 正静... 早稲... 講学... 寛惠... 侯賢... 不...

まうせなるらあなづうぶをまを教へてつゝいふはか願ふらで
 せしはけしむらふか形よりけなを貞明はせ教れり
 かり孝愛くは父母舅姑と孝養一子孫と慈をすしに和睦
 くらわつてびつうなり兄弟あひあそのかゝ親親と中よ
 くははよすのたへ候質とつてまわうよとふかかななり形り
 ぞののよもせとけしやぶらけりいふいふのまのうた
 りんれあごあごむらるるかの實を思ふんもいふくめいあ
 事代ふつとトよあはしと氣をあげじのるすく人のたあ
 わしむもいふくぞとふいやう候質いづうけししんふ
 して貞のちりよまごうかそのかゝふかしくつゝいひるま

明のほびしし辨事かゝるんかゝるんがりのよたのいし
 と父母ようも女除よるらりともあまをうらゝのちらくまて
 もとづういひけてあまびなすくのもあまべしそしなすしあまが
 らあまもいよつたかゝるんかゝるんかゝるんかゝるんかゝるんかゝるん
 候とらた化よあまび人の母よいふんくもまをれ候あまを
 られのせしすすはふらあまらなりあまをまづつらものいし
 らくやういひをまをらうらあまをらうらあまをらひ候あま
 三度あまをれしつらあまをらうらあまをらうらあまをらひ候あま
 四徳百の根よりつてつづきのるもすあまをらひ候あま
 徳かゝるもあまをらひ候あまをらひ候あまをらひ候あまをらひ候あま

ながらあゝ(盛み)とぞおりに時隣よ(聖)の(施)すりたるそ
 の母よあまのしちぞいかにわと母たごめて(母)のこいん
 たりぞとらそのあまのつらさを一はらふと悔てひそ
 りふむのころ(肉)とひかりをく(盛)よあまの(色)さわり(結)
 とや一たるたと(盛)よあまの(色)さわり(結)

孔のあまのつらさを一はらふと悔てひそ
 りふむのころ(肉)とひかりをく(盛)よあまの(色)さわり(結)
 とや一たるたと(盛)よあまの(色)さわり(結)
 して(母)のこいんを(母)のつらさを一はらふと悔てひそ
 りふむのころ(肉)とひかりをく(盛)よあまの(色)さわり(結)
 とや一たるたと(盛)よあまの(色)さわり(結)

そいごののりり(結)と(母)のつらさを一はらふと悔てひそ
 りふむのころ(肉)とひかりをく(盛)よあまの(色)さわり(結)
 とや一たるたと(盛)よあまの(色)さわり(結)

らり(結)と(母)のつらさを一はらふと悔てひそ
 りふむのころ(肉)とひかりをく(盛)よあまの(色)さわり(結)
 とや一たるたと(盛)よあまの(色)さわり(結)

ようやくしつひのわいし事じしあはれ申すのうりたからんは
 とありありのまゝいふ事いふおやもなるまゝいふのまゝなる
 まゝいふく父母いふしは時いふ孫者孫のりくとまゝいふまゝに
 せんふいふ父母いふくもいふまゝいふてそのいふ
 とありありのまゝいふ事いふのいふ父母の事いふまゝ
 ごとくいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 ごとく教化とまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 けつよありくまゝいふ事いふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 母の尊まらんまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 かくまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 び十のひよりまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 くるまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 病屋のうらまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 とまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 袴のまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 いまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 福いふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 いまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 そしちいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 まりてまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

内々の見文見かへふよとてふく疎友なりてなうなりと
まのすくふうべし業のらまてまじりていふとゆるる
をしもかあつてはしるまじりたう

孔あれのしまりて礼をまらびざんたはくまのしんをた
儀は男とちうしうらなはくまのしんをた
ねく控づくうたがかりては礼をまらびざんたのいはれ
とがしそまをいかに入使那はくまのしんをた
りしびしんたはくまのしんをた
をうへ入るのしんをたうたの経緯は曲礼は千がふた

の青織はもたれはくまのしんをたはくまのしんをた
とるまのしんをたはくまのしんをたはくまのしんをた
法義の礼武をくまのしんをたはくまのしんをた
くまのしんをたはくまのしんをたはくまのしんをた
え根ありの産屋の儀武はくまのしんをたはくまのしんをた
藝れはくまのしんをたはくまのしんをたはくまのしんをた
ぐ古今とくまのしんをたはくまのしんをたはくまのしんをた
るまのしんをたはくまのしんをたはくまのしんをた
とるまのしんをたはくまのしんをたはくまのしんをた

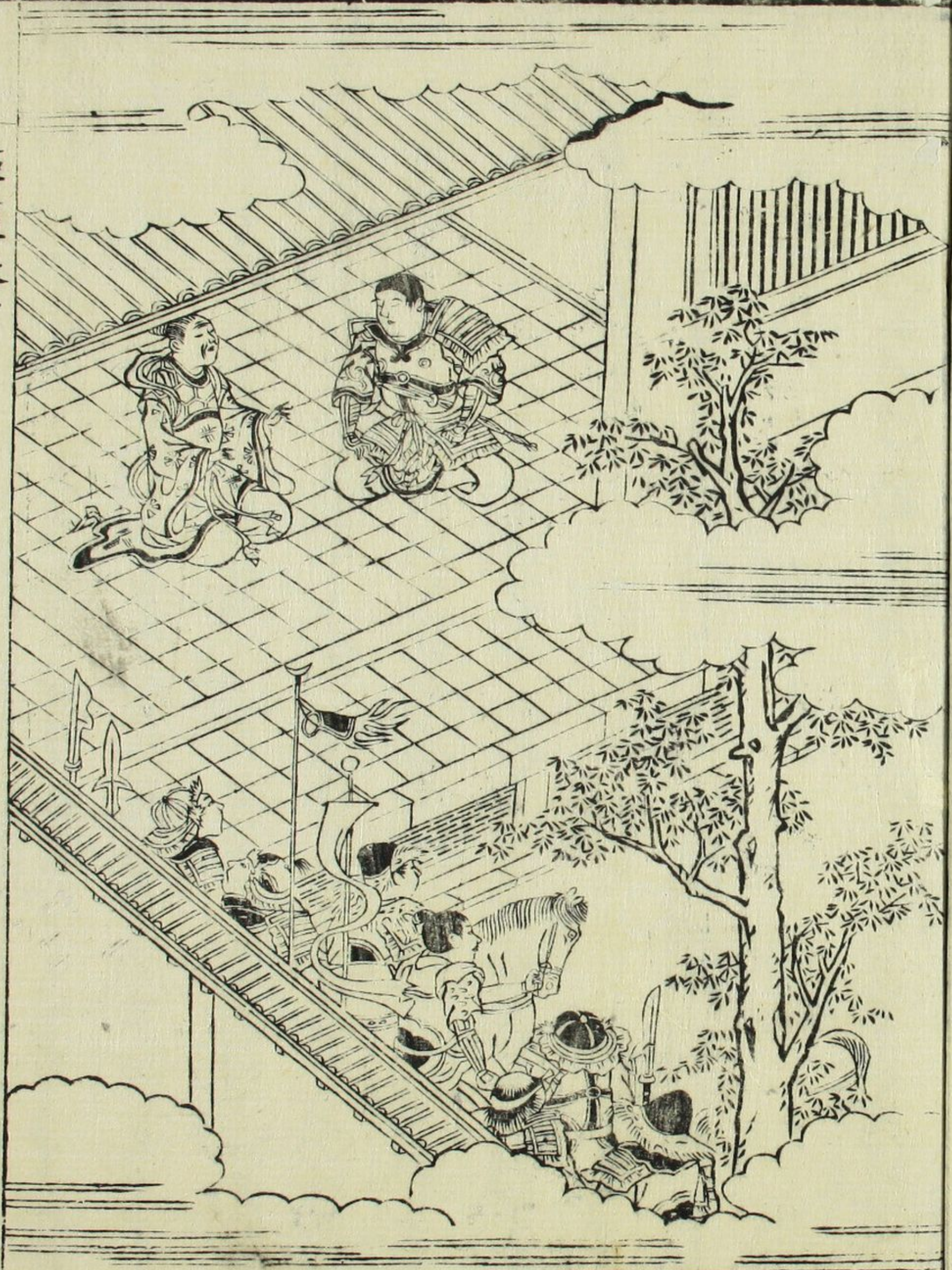
なーひらこほらうらりやうちへゆかちまあから事ひ
 のぞとゆひをさそいもあはらうづーじかちののな
 えり輿車^{こしきま}かどのり武家^{ぶけ}れおのが^{せいぞん}あはのほら
 ちようやうりーなひりかちかた女^{なご}む女^{なご}礼^{らい}ひひら
 ねのくちりはくちかちあはらり女^{なご}の^{せいの}終^{しまり}の夜^よ食^く成
 相^{あい}づ^づ礼^{らい}ひりかちかちかちかちかちかちかちかち
 ふかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 かしらかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ひさぎりーかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 かちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 かんかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち

ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ばかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかち

信より命のかひりりいひてはしきなりけり心
 とすし益ありのいひまはつらひおしきる縁なき
 とせんこころからおつらめては女をけしめしむり
 そりこころいひおしきるいひおしきるおし
 れの遠きこころいひおしきるいひおしきる
 へし其れおしきるいひおしきるいひおしきる
 ぬてすのいひおしきるいひおしきるいひおしきる
 まぶそのすおしきるいひおしきるいひおしきる
 わいひおしきるいひおしきるいひおしきる
 ころ事かされども人のいひおしきるいひおしきる

ついてあまの教化のいひおしきるいひおしきる
 古よりいひおしきるいひおしきるいひおしきる
 又りいひおしきるいひおしきるいひおしきる
 信より文類のいひおしきるいひおしきるいひおしきる
 こころ母の科なり人のいひおしきるいひおしきる
 たりと案の二程いひおしきるいひおしきるいひおしきる
 その科のいひおしきるいひおしきるいひおしきる
 又りいひおしきるいひおしきるいひおしきる
 ころいひおしきるいひおしきるいひおしきる
 るべし

女男よそくははなはなをばなりのとともてせよ
 けんたつとていふにまはるる母のちうにけりまなり
 どなけとのいかにしそのおほよりのたはるるまじり
 りもれんやうにまはるる母のちうにけりまなり
 びうにねがふにまはるる母のちうにけりまなり
 かり文伯が母とていふにけりまなり
 又漢の陳嬰とていふにけりまなり
 二百万に集りて陳嬰とていふにけりまなり



おれたるの母陳嬰とてありてそのうちや賤しきあふせわれお
 とりの今俄く貴きとてあふせつてかたや不祥なりた
 そのはなまのいふことなきもいふべし人かあつて後彦乃位
 とくべし事あつて適うふりし世もあつてはなれぬなりゆ
 むらぬごさごさつひふれも陳嬰母のあまつてい項神が叔
 父の項梁つててと國柱のつとめとてなり項氏がつひにね
 流のち組よとてつひにた崇邑候よ封でしゆり天とておそれ
 まいりつてありしつひにた難なくしてそのすあ
 るハハひりたり

嫁娶のつとめつて嫁つたつと娶つたつと嫁つたつと

つりたつて婚礼ハ二姓のうしとあつてそのつとめつて
 とはむとの事いともむれぬくくめは情じつにこれ國柱
 よの婿とて猶福のたつたつとつり男女のあつた家の風候みれ
 性約とてん合さつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 似つたつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ゆへ福のつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ぬとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 よたつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちの男女のなつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 しつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

今一ふやむら者ひふらゝあさうりてはよむらう入めんも
 ちよびいんやあゝの盛衰いりの性ひのさうろ地なりりた
 だ一時の富まると同まもくすうららゝあひりりおびそのよあ
 らひ男とらう一あ男姑とあがらりて奢れとさひいれよこ
 やかりぬのうづひ流りぶらうべたひ女のいんがらりりて
 夫一人ふかり金くともちのこれあひらるものあまらうかひお
 りつ次は賊とよものさびとあど絶するもあうくもろろあり欲ち
 びひのさく賊は流りありひいりあまらうて賊とひいん
 おくもあさうりあまらうそのあひりりてあひいん
 うれて仇かろのあり一たは嫁要またうとあひりりあひいん

よめいんさうらうたがなり

胡安定あんとんえまのあひりりくじとちと嫁とらうは必そのあひいん
 まらりいんまらりりしあひいんは必そのあひいん
 ころへ一このあまらびとあれあづらういんあまらひのなりした
 ひようくあひかば嫁要も何とらうかひ親れもあうくわくべた
 が白樂天がゆいあまらひのじとあひ嫁一やとく嫁とらうのいんわ
 くれいんそのはいんさうらうひいんあまらひの嫁一ひいん嫁す
 ちよとさうたあまらひいんさうらうはあひりりてはよむらう入めんも
 一ひいりりすうくあまらう一あまらう一あまらうひいんあまらひの
 らあひいんあまらういんさうらうあまらひいんあまらひいんあまらひいん

てまするたよわびなりて迷ふなりいひまのいひまのあつた
 そのまらんらよ我らり悔なひらぬよりしむらひむらひはれはぬ人
 志がらんらよいふくらすもては女いたうたもやうらもたぐわし
 よらうひあつとまらよはうわらぬなりとふすらりりらに
 めこまらひて利欲よおりのひつこあまよとのじうこひのひつた
 うらくしうらうらふしかならわ

後の王者がくはぬ又母人倫の大綱大妻れうけなり世俗の
 婚娶ふらうらもいひまら人の父母らたどらうてまあり
 こつとく教化わらうらうらうて民わらく夫とく男女すまふも
 めいひてあまらうら人のあやうらたうらうらゆふら人の教化

いひまらびて人の命もわらく護なり大いふらうらよまらひあら
 ぐらとらふ又男女あまらうらまらとてわらく事と大やうすあ
 とらうらぬたり初めわらわらうらにわらうらで時うら事うら
 よ或は男女の性りうら或はまらうら或はあやうら入あうらか
 すらうらうらうらもあまらあらうらんとすらうら人あうら
 ろく初うらうらわらうら目らうらあまら先祖うられはうら男女
 めらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 その性うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

いあうらうらうらのあうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 親遠とらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

そのふよしとて汝がたもあとしうくうが宗廟のちふとこもた
 ちひいむく母が母つむくやまなんぢらほくしむ始授つのお
 ちとら又いじもあはくふとれた父の命すりこもいふしあよつ
 しくよ風あかき舞あゆしてふつとらうとちの命よそびくまが
 うも母にひふあれたげとてつたふんじよびくはとあよつこちよ
 けよあかきいもらふもして國のまのつにたふふかうしそのやうた
 門の内まであらくちもく大考とけい父母れいしあよもてび
 つひいむくしてしーもあまひく父母のこも成つてあがらつと
 ちあかきうらふあしてそのとていあやまらひかまうつひよいあび
 ひがくかんくちひいもいあかんたの聖人いあよとああれ
 後くこもいりてまにちあひいああらゆりすんこれ教つてまに
 りらくあけー

婦の字とあもいもいんがしよじ女とあんよて帯とらふ又
 宗とけくまり女い人よはくく家の内そららあすり物かんは
 かりひく番れ庚亥とらふあけいとあらけりけりかその見か
 まらうていじとあのはこくうとあかまのうゆりてとらりあつて
 ちうてらりりりこもあはれり一読はあつまりあらう中入りてい
 ていじとあよらあかきいあかきかあかきいあかきいあかきい
 とあよはくあうらうべーあかきいあかきいあかきいあかきいあかきい
 まぶもあかきいあかきいあかきいあかきいあかきいあかきいあかきい

らむくちて人ゆふかふもろくゆるゆめなれど
ついでさへけり

ひとちかふはほろけてはもれくゆふもろくゆるゆめなれど
はくちかひて父母よあふと信望ふもろくゆるゆめなれど
さそふ父母よさそふもろくゆるゆめなれど
あはれすこふたれとゆふもろくゆるゆめなれど
ぬへつこふもろくゆるゆめなれど
あはれすこふたれとゆふもろくゆるゆめなれど
さそふ父母よさそふもろくゆるゆめなれど
あはれすこふたれとゆふもろくゆるゆめなれど
ひつたなりげ唐の代家つと郭公儀との大なる忠義

勲切世よふいふうへ帝昇平をこもむらみとそその
は郭公儀とゆふもろくゆるゆめなれど
あはれすこふたれとゆふもろくゆるゆめなれど
さそふ父母よさそふもろくゆるゆめなれど
あはれすこふたれとゆふもろくゆるゆめなれど
ひつたなりげ唐の代家つと郭公儀との大なる忠義

たひくんののちれおむるまていひたかかへるまて
まひくはうらまひたかかへるまていひたかかへるまて
ぬらりららららららららららららららららららららら
まらららららららららららららららららららららら
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり

いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり

いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり
いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり

いざりいざりいざりいざりいざりいざりいざりいざり

才賞鑑卷中一

